



今回の『温故知新』はインタビュー形式で環境設計（株）代表取締役 井上芳治氏にお話を伺いました。



●日本でのランドスケープは、どのような歩みをしてきたのでしょうか？

井上：当初、日本では公共造園としてニュータウン等の建設や都市公園などにランドスケープの概念が取り入れられはじめたんです。1964年の東京オリンピックからその気運が高まり、関西では1970年の大阪万博から、1990年の大阪花博にかけてランドスケープは成長してきたといえるでしょう。

●成長してきた過程で良かったこと、また、問題点は何だったと思われますか？

井上：高度成長期に伴って、オープンスペースを計画設計する機会が多くなり、色々な経験をすることができました。その反面、自然破壊や都市化が急速に進んだこともあり景観の質的な面が軽視されてきたんじゃないかな。

●ランドスケープの現状は？

井上：現在言われてるような『ランドスケープ』の一連の思想は、当初から考えられていた事であって、いまはしまったことではないんです。最近になってようやく社会から受け入れられるようになったな、と思いますね。

●特にランドスケープアーキテクトにとって大切な事はどのような事でしょう？

井上：愛と平和を重視し、趣や風情、情操性やセンス(美的感覚)、人間性、生態感などを含めて空間創造ができることです。ランドスケープは人の営みと自然の営みを調和させる事が基本ですよ。

●若手ランドスケープアーキテクトにメッセージをお願いします。

井上：これからは環境問題を解決する事が求められてきますし、良好な景観を形成していく事が国民のニーズとなるでしょう。若い人の努力や挑戦が実を結ぶ時が来ると確信しています。これから様々な場面でおおいに活躍できるよう実力をつけておいてください。

井上芳治 環境設計（株） 代表取締役

1941年生まれ。登録ランドスケープアーキテクト（RLA）、技術士（都市及び地方計画）。64年東京農業大学造園学科卒業後、68年環境設計（株）設立、現在に至る。また、大阪芸術大学非常勤講師も務める。沖縄海洋博、大阪花博、淡路花博の会場造園など多数のプロジェクトに従事。99年には黄綬褒章授章。